

# どっこい生きてます!



栗原豊センター長の小学校時代の同窓生のうち女性グループの8人が、潮騒ジョブトレーニングセンターを訪れて潮騒が取り組む依存症の回復支援活動に理解を深めて頂きました。センター長だけでなく同じ同級生のシンさんとも再会を果たした一行は、すっかり子供時代に戻り懐かしい思い出話に花を咲かせていました。また、この日は支援者の尽力により鹿島アントラーズのホームゲームが行われる県立カシマサッカースタジアムを見学することができました。(3ページに記事)

2017

6

# 受刑者の皆さん、 回復を諦めるには 早すぎます



既報したように月1回の刑務所へのメッセージに取り組んでいますが、実際に足を運んで受刑者の皆さんから話を聞いて思った事があります。このところ受刑者の間に「ダルクや潮騒なんかに行ってもクスリやアルコールはやめられない」という噂がまことしやかに吹聴され、塀の中の狭い空間に伝播しているらしいのです。せっかく薬物離脱教育に取り組んでも、これを否定する動きを誘発しかねない懸念を抱きます。どうやらダルクや潮騒 JTC に反感感情を抱く受刑者らが出て、そこが情報発信元らしいのですが、一度は繋がったものの回復ルートに乗れずに、期待を裏切られたとして一方的に恨みを募らせているのかもしれない。何のことはない、当人が自己中心的な生き方の問題に向き合えずに、他人に責任をすり替えるアディクト特有の身勝手さを物語っているだけのようですが、この壁をどう乗り越えるかは依存症の永遠の課題だと言えます。

誤解を恐れずに言えば、依存症は治療的なスリップ(注=スリップは回復にとって不可避な必要悪という考え方)が付きもので、行ったり来たりの変幅が激しく、一筋縄ではいかない手ごわい病気です。当然ながら刑務所では強制的に断薬、断酒、断賭博の環境に置かれる訳ですから、否応なくクリーン期間が保たれます。でも、一步塀の外に出ればそれら依存対象への渴望がたやすく再燃する事は、かつての自分の経験からも十分に理解できます。私が根本にある依存症の問題に向き合えたのも、実に7回の刑務所体験が下地になっています。私見で申し訳ありませんが、その困難を乗り越えて回復の歩みに乗り出せるのは乾坤一擲、ある種の「賭け」のようなところがあります。私の場合は、もう後がないとする完全なギブアップ状態によって、幸運にも自分の依存症問題に謙虚に向き合える姿勢を生み出したのです。ここから私の回復人生が始まりましたが、そのきっかけがダルクに繋がったことでした。

そして今、74歳になったヤク中・アル中の私でも、「生きていれば素晴らしい贈り物が与えられる」という体験をしました。なんと、私の小学校時代の同級生女性8人が潮騒JTCを訪問してくれたのです(3ページに記事)。私にとっては奇跡とも言える嬉しい出来事でした。年齢的に鬼籍に入っている同級生も多い中、すぐに60数年前の小学生時代に戻り、懐かしい思い出話に花が咲きました。ご承知のように、私はもの心ついた頃から親の愛情に飢え、養母の理不尽な虐待を受けて育ち、子供ながらに生きる希望を失って小学5年の時に自殺未遂を経験したこともありました。そんな中で生きていくには自分の弱さを見せず、常に鎧を身に付けて、強い自分をつくりあげるしか術がありませんでした。それを補強したのがアルコールと覚醒剤でしたが、結局は依存症に陥って人生を棒に振った訳です。でもダルクに繋がったことで新しい生き方を手にすることができ、自分の施設も持てました。そのリアルな事実を今回、自分の目で確かめてくれた同級生たちには感謝の言葉しかありません。ですから受刑者の皆さん、回復を諦めるには早すぎます。どうか私の体験を参考にしてください。(センター長 栗原 豊)

## 栗原センター長の小学校同級生 潮騒を視察訪問



栗原豊センター長が、故郷のさいたま市で小学校時代に机を並べた同級生の女性八人が6月7日、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館を視察に訪れ、潮騒の幅広い回復支援活動に理解を深めてセンター長と旧交を温めました。今回来所された一行の世話人でもある長谷川トキ子さんは、栗原センター長が鹿島ダルク時代から支援を頂いている神奈川県支援者の方と偶然にも繋がりがああり、その縁で「いつか仲の良い同級生達と視察にきてほしい」とオファーをしていました。栗原センター長は「ワルだった子供時代の私が転落人生から立ち直り、自分の施設で頑張れるのも陰で支えてくれる同級生らのお陰。今回の視察は私の棚卸しにも繋がる」と強調しました。

実は、潮騒には栗原センター長の竹馬の友であるシンさんが長く入寮生活を送っています。シンさんは波乱の人生を送り、晩年は故郷で不遇な環境にあったのですが、栗原センター長に「潮騒で過去の職歴(造園職人)の腕を生かしてはどうか」と促され、潮騒に漂着。農業隊の前身となる地域貢献活動で、民家の造園作業などに手腕を発揮し、熱心に入寮者を指導しました。現在は体調を崩して現場からは離れていますが、今回訪れた皆さんは、デイサービス百寿亭でシンさんとも再会し、思い出話に花を咲かせました。一行は映像などで潮騒の活動に理解を深め、昼には潮騒食堂「おらげのかまど」で栗原センター長と楽しく会食し、その後は支援者の尽力により県立カシマサッカースタジアムを見学して視察日程を終えました。

## 後継者を育て 「依存症村」の実現に向け 更なる活躍を!

かねてから一度訪ねてみたいと思っていた鹿嶋。そして「来い!」「来い!」と誘いを受けていた鹿嶋。今回、やっとその願いが実現し約束を果たすことができ、ホッとしているのが今の心境です。お忙しいのに、豊さんには二日間私達にお付き合いいただき、本当にありがとうございました。スタッフの皆さん、そして小田倉様、原田様お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。最高の旅行になりました。

私達には難しいことは分かりませんが、利用者様の笑顔に触れ(ルミの家)、救われました。また穏やかな雰囲気の中にも、豊さんの強いリーダーシップに感嘆しました。ご自身を、「怖いもの知らず」と言っていました。ぜひ後継者を育て「依存症村」という壮大な夢の実現に向けて、ますますご活躍ください。私達には何もできませんが、気持ちの中で支援して参ります。またの再会を楽しみにしています。

平成29年6月8日  
野田小学校同窓会女子 長谷川トキ子

2017シリーズ企画

潮騒ジョブって  
どんな  
施設なの?

その4



潮騒発足当初から杉本会長が引っ張る

## 「潮騒家族会」

2017 シリーズ企画に加えるには違和感を持たれるかもしれませんが、潮騒を語る上で無視できないのが家族会の存在です。依存症の当事者と家族は加害・被害の関係を越えて共に被害者としての側面を浮き彫りにします。車の両輪のような関係なので、その回復の歩みも並行して行われることが求められます。それまで地獄の苦しみを味わってきただけに、家族は「やっと我が家に平和が訪れた」と安堵しますが、問題は突き放すだけでは解決しません。依存症に振り回された家族もまた、本来の健全な関係の再構築を目指す必要があります。潮騒家族会は施設を側面から支えながら、この問題に向き合っています。(広報部)

### 日本では依存症の家族は 共依存の回復が問題に

潮騒JTCでは毎月、鹿嶋市宮中の潮騒アディクション・ビレッジ会館会議室で「潮騒家族会」(杉本勇蔵会長)を開いて、身内の依存症問題に振り回されて疲弊した家族の回復を目指す活動を下支えしています。依存症、とりわけ犯罪や非行と絡む薬物依存症や世代を越えて連鎖しがちなアルコール依存症は、当事者本人だけでなく家族をも巻き込んで独特の病理を形成し、家族崩壊の危機を招き寄せることも珍しくありません。

我が子といえども幼い頃から個の自立を重んじるキリスト教風土の欧米とは異なり、親子の人格が未分離なまま成長しがちで、時として悲惨な親子・家族事件が起こる日本社会ですが、理屈抜きに世間体を重んじる空気が家族を支配し、浪花節的な親子の情愛や世話焼きが美德とされます。この結果、子供に依存症問題が浮上する



▲発足以来、潮騒家族会を引っ張る杉本会長と夫人。今年3月の潮騒大運動会では息の合った二人三脚リレーを見せてくれました

と、まず親が責められて「親のしつけや教育、監督がなっていないからだ」「社会に頼らずに自己責任で、親の愛情でなせ」とばかりに家族内での解決が求められ、理不尽な暗黙の外圧が掛かります。

こうして依存症の家族は相談機関にさえ足を運ぶことが憚られて、ますます内向化し矛盾を膨らませ、最悪の場合は親子の刃傷事件に至るケースもあります。いつの間にか家族自体が依存症の一種である共依存の深い闇に嵌まってしまう「絡め手」の構造が、我が国における依存症の問題には特異な側面として浮上します。

### 突き放しと同時に 関係の埋め合わせも必要

このため依存症の回復には当事者の問題に加え、共依存に囚われた家族の回復も同時に求められ、各地のダルクではほぼ例外なく家族会を維持しています。それぞれ特色ある家族会が運営され、多くがアノニマス(匿名性)の原則を持ち、共依存への理解を深めながら親子、兄弟の関係修復を図っています。また、これを束ねる全国規模の家族会も組織され、依存症に関する制度の確立を訴えながら、国への直接行動を行うなど圧力団体の側面も垣間見せています。

潮騒JTCでは栗原センター長が前身の鹿嶋潮騒ダルクとして鹿嶋市内に独立して間もなく、スリップ者が続出してしまい、悩んだ挙句に栗原センター長が家族の協力を促した事がきっかけで発足しました。「当時は八方塞がり、家族との情報交換を密にして、家族の皆さんから後方支援をして頂かないと施設が持たなかった。突き放すだけではダメで、親子が逃げずに依存症問題と向き合

いながら、共に自分達の問題解決を図ろうとする事の重要性を学ばせてもらった」と栗原センター長は振り返ります。

現在は毎回、20 数人の家族が参加しています。冒頭、杉本会長と栗原センター長が挨拶し、参加者が順番に近況報告をして情報交換した後、後半では身内の当事者も加わって施設生活の近況や回復活動の様子などを話してもらい、濃密な時間を過ごしています。

### 理屈を超えた親子の情愛で 関係修復を目指す

再び、栗原センター長。「回復には徹底した親子の突き放しが必要だとして家族だけの集まりに特化しているケースもあるようだが、過去に浪花節的な世界で生きてきた私には親子の情愛を無視できない。そこには理屈を超えた強い絆があり、これを家族会の活動を通じてうまくプラスの方向に導ければ、きっと依存症回復の下支えになるはず」としてニュートラルな立場を打ち出しています。

10年以上の長きにわたり潮騒家族会を引っ張る杉本会長は「私達の家族会は規約も規則もなく、自由な雰囲気なのが身上。この自由さが長く続く秘訣かなと思う。依存症の回復にこれだというセオリーはないので、毎月家族がお互い元気に顔を見せ合い、苦しきを含め本音を吐き出して、みんなと分かち合える雰囲気をつくっている」と話してくれました。アノニマスの原則を踏襲しながらも、和気あいあいの「ちょうどいい加減」な運営で、家族同士の信頼を得ている様子がよく伝わりました。(潮)



私は私のために生きる。

あなたはあなたのために生きる。

私は何もあなたの期待に応えるために、

この世に生きているわけじゃない。

あなたも私の期待に応えるために、

この世にいるわけじゃない。

私は私。あなたはあなた。

でも偶然が私たちを出会わせるなら、

それはそれで素敵なこと。

たとえ出会えなくても、

それもまた同じように素晴らしいこと。

※ドイツの精神医学者でゲシュタルト療法の創始者、フレデリック・S・パールズ(1893~1970)の言葉「ゲシュタルトの祈り」。



## JA直売所のメロン祭り



県立カシマサッカースタジアム近くの「JAしおさい鹿嶋農産物直売所」(鹿嶋市神向寺)で6月10日、恒例のメロン祭りが開かれました。今年も同JA管内のメロン生産農家では糖度の高いメロンが収穫され、この日も訪れた人達が積極的に買い求めていました。潮騒では3年ほど前から9月の新米祭りと共にメロン祭りに参加しています。今回は農産物等の販売ではなく、主に潮騒のマンパワーを生かした「助っ人」役で祭りを下支えしました。また、すっかり人気となった潮騒エイサー(琉球太鼓)の演舞で祭りを盛り上げ、踊り手のエイサーメンバーの励みにもなりました。

潮騒農業も準備段階を含めると7、8年の取り組みとなり、事業主体の農業隊メンバーはコマや野菜などの生産では、専業農家に引けを取らないレベルに技術力を身につけてつあります。収穫した農産物の販売を委託しているJAの信頼も高まっており、メンバーには大きな自信になっています。潮騒はここ数年、メロン祭りの盛り上げ役だけでなく、テント貸し出し設営、購買客の車へのメロン運び、国道からの駐車場への車の誘導などで協力要請があり、農業隊を中心にスタッフらが下支え役を担っています。

農業隊リーダーのヒトシさんは「地域のJAから信頼されてお手伝いができるのは、自分達の回復にとって大きな励み。仲間達の中には“そこまでなくても”の声もあるけれど、あくまでプログラムとして取り組む潮騒農業の基本は利益より回復が主眼。こんな俺達でも地域に受け入れてくれる人達がいることに感謝したい」と話しています。(潮)

## Shiosai Flower Road 潮騒フラワーロード



### 色鮮やかな初夏の花で彩る

## デイケアの仲間70人が参加して恒例の花植えプログラム

この時期の恒例行事となった潮騒フラワーロードの花植えプログラムが梅雨の晴れ間の6月19日、鹿嶋市宮津台の下津ナイトケア施設(NPO本部)前の市道沿いの花壇で行われました。新参の入寮者を含めたデイケアの仲間約70人が参加して、市道の花壇にマリーゴールド(黄・オレンジ)やサルビア、赤いコキアなど4000株を、すべて自分達の手で植え切りました。今年は事前の花壇の除草は農業隊メンバー二人の力を借りましたが、この作業では経験を積んだ仲間達もいることから、今年はデイケアの仲間達だけで一連の工程をやり切りました。暑さによるトラブルや事故防止のために、花植え作業中はこまめに休憩を取り、水分補給をしながらスムーズに進められました。

花植え作業は、夏場に交通量が多くなる下津海水浴場が続く施設前の市道を初夏の花で飾り、近所の人達や通行人、道行くドライバーらの心を和ませようという趣旨で取り組まれ、すっかりデイケアのプログラムとして定着しています。「自分たちの手で施設前の通りを美しい花で飾り、育てることで地域活性化や潤いある市民生活に貢献できたら…」という栗原センター長の願いが実を結んだ地域貢献のボランティア活動です。潮騒では、施設側と向かい側の両歩道約600メートルを「潮

騒フラワーロード」と名付け、市の協力を得て初夏の花を定植し、水遣りなどして自主管理しています。

この時期の花植えは、まだ暑さに慣れない時期だけに汗を拭いながらの地味な作業ですが、先輩入寮者が新しい仲間を促しながら午前のダルクミーティングとは一味違う野外での軽作業として、約2時間で全行程を終えました。この日は前日に再飲酒してスリップしたばかりの仲間も参加し、「これは回復のプログラム。酒を飲むより、こっちの方が気持ちいい。もっとこういう機会があればいい」と話していました。今回も率先して動いていたのは少数派で、数人は参加意欲が低いのか喫煙しベンチに腰を下ろしていましたが、それでも「室内に籠っているよりは健康的かな」などと漏らしていました。(み)

### 今年は初めて農業隊なしで 定植作業をやり切る

潮騒フラワーロードの花植え作業は、デイケアの仲間達が普段から体を動かす事が少ないことから、メンバーの体力作りの一環として取り組むプログラム活動です。しかし実際には、この趣旨を受け止め積極的に動く仲間は少数派です。なので、増加し続ける高齢者に見られるように、体を動かすのが苦手な仲間、意欲の無い

仲間を、いかにどう動かすかが今後の課題となります。

私が作業の終了後に仲間達の声拾ったところ、「都会では味わえない自然との触れ合いに感謝する」「社会貢献(ボランティア)活動に参加しているという嬉しさを実感した」「せっかく田舎から都会?に逃げてきたと思っていたのに、なぜ今さら(嫌いな)土いじりをしなければならないのか」など様々でした。なかには否定的な反応もありますが、やる気のある仲間と一緒に汗を流して花植えに取り組むことで、次第に自分も感化されて終わった頃には達成感を得ている様子を目にすると、花植えの意義を感じます。

今年は初めて農業隊なしでの花植えとなりました。このため最初は少し戸惑いましたが、いざ始まると今年は“若い力”が目立った花植えとなりました。もちろん高齢者も今まで通り頑張りましたが、幕末の風雲児とも言える若い志士達の活躍を想起させるが如く、世代交代のような流れを感じました。衝撃でした。デイケアもこのような団結力を発揮できる事にうれしく思っています。

今年は常陸海浜公園でも人気のコキアなどを含む4000株を自分達だけですべて植えました。例によって見学をしていた仲間もいましたが、すべてやりきって気持ち良かったです。今後の作業ですが、水遣りや除草はデイケアプログラムとなります。その“若い力”での取り組みがとても楽しみです。それにしても、みんな外に出るのが嬉しいのか、伸び伸びと楽しそうに作業していましたし、笑顔が多かったように感じました。

この日は特に30度近くまで気温が上がったので、水分補給をこまめにしました。終わった後の花たちを見ると潮騒流でいろいろな個性、並びもバラバラ、色も一色にしてしまった所、少しセンスのない所もありますが、それでいいのではないかと私は思います。今後はデイケアプログラムとして農業の先輩仲間へ負けぬよう努力していくつもりです。(デイケア責任者・ツカ)

### はぎ 汗をかきながらやれたことが 自分の心に笑顔をくれた

今回フラワーロードの花植えに参加して、皆で協力し合うことで幸福と勇気、情熱をもらいました。潮騒の魅力の一端を感じることができ、自分が元気になっていくのが分かり、いい経験になりました。フラワーロードで汗をかきながらやれたことが、自分の心に笑顔をくれた気がします。今回、楽しくやれていい思い出になり、あるがままの自分の姿がいつか本来の自分になれたらなあって思い、よい一日をすごしました。

### ねお 仲間が一体となり皆汗を流し 頑張っ社会貢献できた

この度はボランティアということで、フラワーロードの花植に参加させていただきました。暑いぐらいの晴天に恵まれ絶好の日だったと思います。社会貢献ができ、また仲間が一体となり皆汗を流し頑張りました。とてもよい一日だったと思います。また今後このような機会があれば参加させてもらいたいと思います。

### しろ 花の力は人の心を 穏やかにしてくれるのだと実感

潮騒にお世話になって2カ月半、やっと仲間との共同生活も慣れてきました。そんな中、自分の住んでいるナイトハウス目の前のフラワーロードに花を植える作業を多くの仲間と共に行いました。雑草を刈ってその場所に花を植えるのですが、いつもは自分勝手に自己中心の考え方、行動しかできない自分と仲間達は、その日だけはスタッフの指示に従って黙々と作業をしていました。花の力は人の心を穏やかにしてくれるのだと実感しました。まだまだ人の意見、アドバイスに素直に耳を傾けることができませんが、この共同作業で何かをつかんだ気がします。もう少しだけ頑張って生活をして回復したいなと思いました。



## 潮騒アディクションセミナー

# 依存症の話に共通する 問題意識を自覚

外部の回復者から貴重なメッセージを頂く潮騒アディクションセミナー(男子)の風景▶  
女性は写真がありません



社会で暮らす依存症の回復者から貴重なメッセージを受ける潮騒 JTC の独自企画「潮騒アディクションセミナー」が先頃、男女別に各会場で開かれました。仲間達はアルコールや薬物、ギャンブルに問題等を抱えながらも、地域の自助グループに繋がって社会内で回復しているメンバーから貴重なメッセージを受け取りました。今回は「不安を乗り越える」をテーマに鹿嶋市まちづくり市民センター会議室で開催された、女性メンバーだけのセミナーに参加した「るみの家」入寮者の感想を紹介します。なお、この間の紙面の都合で掲載のタイミングが遅れたことをお詫びします。(広報部)

## なあな 感想文

## 初の司会をやらせて貰う貴重な体験ができた

私にとって2回目のアディクションセミナーが行われました。計4名のメッセンジャーが来て下さり、初めて会う方もいてどんな話が聞けるのか楽しみでした。特に前回も来て下さったYさんの話が面白くて、共感できてとても印象に残っていたので、「またYさんに会って話が聞ける!」とウキウキ気分でした。Yさんに久しぶりに会って握手をして貰い、「今はスタッフになりました」と報告したところ、Yさんから「成長したねえ。今日の司会やってみなよ」と背中を押して貰い、まさかのアディクションセミナーで初の司会をやらせて貰うという貴重な体験ができました。皆それぞれに話をし、先行く仲間のお話はとても上手で聞き入ってしまいました。整形依存症、買い物依存症、ギャンブル依存症、賭け事依存症…いろいろな依存症がある事を初めて知りました。どんな依存症であれ、苦しみは一緒。目標も一緒。やっぱり回復は一生モノで、それぞれ苦しみながら「今日一日」で頑張っているんだなあ、と感じました。涙を流しながら話を聞いている仲間もいて、私にとって潮騒アディクションセミナーは回復には欠かせないとても大切なミーティングです。とても良いお話を聞けて充実した1日になりました。

## めい 感想文

## お腹が出ていたって二重あごだっただけじゃない

今回のセミナーは4名のメッセンジャーの方が、アルコール、美容整形、ギャンブル、買い物依存症等々、赤裸々に話してくれ、私は話に聞き入っていました。中でも前回来て下さった双子のTさん、Hさんの話はとても共感しました。摂食障害の私は「やせ」へのこだわりが強く、痩せている＝「美しい」と思い込んでいた為、食べては吐くという行為に依存していましたが、二人は、それが美容整形だったという事です。涙を流しながらTさんが言った言葉「ちょっとくらいお腹が出ていたって良いじゃない。二重あごでも良いじゃない」に、私も涙が出ました。分かっているのに止められない自分が情けなかった…。今は「良い加減」にできる自分になりつつあります。子供に淋しい思いをさせて来た私。子供よりアディクションを取っていた頃の私を、メッセージを聞いて思い出してしまいました。あの頃の自分には戻りたくないと改めて想わせて頂きました。メッセージを運んでくれた仲間達、ありがとうございました。

## まり 感想文

## グリーン期間を伸ばして女では無くママに戻りたい

お酒や整形依存の話が出ましたが、自分と被るところが多々あって、子供を育児放棄したりして、とにかく私と同じか、それより酷かったりした部分もありました。私はお酒、シンナー、覚醒剤で育児放棄をしてしまったり、記憶が無いときに一度だけ長女をDVした事があって、すぐ掛かり付けの精神科に行って素直に話し、児童養護施設で保護されることになりました。次女が4歳5ヶ月まで私はお酒を飲みながら、どうにかシングルマザーで頑張っていたけれど、最後の方はお酒に溺れてしまいました。次の日にはアルコールの離脱で、次女の一番大切な幼稚園に連れ行くことが出来なくなり、休みがちにさせてしまって、結局長女と同じ養護施設に入れること

にしました。

次女がいたので旦那とも離婚していたので、パパとママの役割を全部一人で背負って、私と長女と次女の3人で暮らしていくことが出来なくなりました。お酒に溺れていっぱいになり、生活が成り立たなくなったのでYさんの事を酷いと思ったりもしたけど、自分の方がちょっとマシだと思ったり、いや!結局同じなんだと思い、泣いてしまいました。でも、そういう体験談をメッセージとしてお話して頂いた事に有り難く感じましたし、私だけじゃないんだと凄く共感しました。お酒にせよ、シンナーにせよ、覚醒剤にせよ、アディクションが何であれ、結果は皆同じになってしまうんだ!と気づきました。とても恐ろしく思いました。もしかして長女や次女をDVか育児放棄で殺しかねないことをしていたんだな、と実感しました。1日も早くクリーンを伸ばし女では無く、ママに戻りたいです。

いるか 感想文

### 整形依存の話に覚醒剤による病的痩せすぎを思う

双子のTさんの話を聞いて整形依存の問題を考えました。美を突き止めるために整形を続け、顔や体を整形したそうです。私からすれば「そんなに気にする程じゃない!」と思うのですが、本人にしてみたら整形をしてみたいと思うんだなあと思いました。私の場合は覚醒剤を使うことによって痩せている事に執着し、他から見て痩せすぎだと思われていても、自分ではそれでも痩せたくて、自分では「イケてる!」と思っていました。着たい服も覚醒剤を使って痩せているから着れました。当時は、そんな自分に満足している自分がありました。でも今は、痩せたいという思いが少しずつ消えています。前の服が着れないくらい太っているけど、今では「そんな自分でもいいんだ!」って思っています。覚醒剤を使って痩せたいと思う自分は、病的な考えしか持っていなかったのです。今は、そういった事を気にすることが無くなりました。そんな事を思いながら話を聞いていました。とても良いセミナーミーティングだったと思います。また参加出来るといいなあ。

ゆうこ 感想文

### ミーティングの使い方が間違っていたと気付く

私はアディクションセミナーに行くのは2回目です。1回目は緊張してあまり話が分からなかったけど、今回はその場に行けて良かったなって思います。私が1番心にくたのは、なあと同じくYさんの話でした。私はミー

ティングの使い方が間違っていたんだ、と気付きました。「これを言えば引かれるんじゃないか」「これを言えば自分の辛い過去を、よみがえらせることになるんじゃないか」と思っていたけど、Yさんの話を聞いて私も辛かった過去や自分でしてしまった事と向き合えるチャンスなんだと思いました。

みく 感想文

### 姑との確執30年を我慢しアルコールで解消してきた

セミナーでは、いつもながらYさんの話は赤裸々で、そしてアルコール依存という同じ共通点を持つ仲間として共感出来る部分が沢山ありました。同様に整形依存、競馬依存、皆苦しんでいるんだなあと痛感しました。私もアルコールの問題、そして嫁と姑の“カクシツ30年”我慢し続け、アルコールでそのストレスを解消していた自分の事を話しました。帰り際にメッセージの一人が声をかけて下さり、「私も姑には苦勞して35年我慢して来たのよ!」と気楽に話しかけてくれました。「ああ同じ悩みをずーっと抱えてきた来たんだなあ」と、とても共感出来ました。またの機会に話を聞いたら良いなと思いました。

かよこ 感想文

### 他の方の気持ちが聞けたけど嘘なのかなとも思う

アディクションセミナーで色々和他の方の気持ちが聞けて、みんな私と同じように辛い気持ちがあるんだなあと思いました。休憩時間には楽しくお話が出来て、タバコの吸い方も教えてもらいました。嬉しかったけど、そして自分は欲しいと思ったけど、やっぱりいらないです。緊張して、思っている事を言い切れなかったけど、セミナーで堂々と言った方は凄いなあと思ったりしましたが、でも嘘なのかな、とも思いました。

ゆめ 感想文

### 少しずつでも自分の気持ちを話ができ良かった

2回目のアディクションセミナーでしたが、いつものミーティングでも緊張するのにメッセージが4人も来ていたので、緊張していて自分で何を話したのかも覚えていません。けど、自分の気持ちを話できて良かったと思います。最近、私はミーティングで自分の事を少しずつ話せるようになり、ちょっとずつ気持ちが楽になってきました。これからも素直に正直な気持ちをミーティングで話して行きたいし、次回のアディクションセミナーでは余裕を持って参加したいです。

# 受刑者からの手紙

## 三食付き完全独居で 居場所が無い人には居心地良い

毎度のお便り、有難うございます。嬉しく拝見させて頂きました。シゲさんからも、丁寧なお手紙を頂きまして共に心に染み入りました。感謝です！高齢化に関してはここにおいても同様で、見たところ2~3割は60代以上の受刑者が占めており、通常の動作さえも困難な人が多数おります。職員の苦労は並大抵では無く、思わず手伝いたくなってしまいう程です。“行動訓練の警備隊の若い職員も鬼の様な言葉と顔”を作って厳しく指導？”していますが、本心は空しく思っているのかも知れません。受刑者の犯罪傾向も変化しており、高齢者であっても窃盗を繰り返せば累犯ですから、長期にもなります。居場所が無い人にとっては、三食付いてここは完全独居ですから、居心地が良いのかも知れません。

私は20歳から9回も刑務所へ行ったり来たりですが、“刑務所が良い”とは到底思えません。そう思っている内が花かも知れませんが…。話が長く成りましたが、潮騒での活動は“潮騒通信”で知る事が出来、とても楽しみになっています。発行する側はタダではありませんし、ご苦労も多い事かと思いますが、“確実に私達の励み”になっておりますので、これからも宜しくお願い致します。(広島県 S・Y)

## この懲役で1つでも多くの資格が 取れたらと毎日思う

お手紙有難うございます。シゲさんは毎日忙しい人なのですね。どうか身体には充分気を付けて下さい。シゲさん一人ではないと思いますが、全国の受刑者とも手紙を通して交流を深めているのでしょうか？色々な人達から為になる話が聞けてシゲさん自身、何が“身に”成りましたか？何か良い話が聞けた場合には私にも手紙にて教えて下さい。

シゲさんは潮騒を退寮してから、何か仕事をしようと考えているのですか？私はまた、今までやっていた建築の仕事に就こうと考えています。仕事関係の資格等が無いため、この懲役にて1つでも多くの資格が取れたらと毎日思いながら“職業訓練”の募集がある度に応募しているのですが、まだ願いは実りません。“狭き門”は開けるのが大変です。

頭の中は先の事でいっぱいなので、覚醒剤の事などは頭の中にはありません。栗原センター長からの手紙中に「覚醒剤依存は治らない病気だ」と書いてありましたが、「私は違う」と思います。その答えは今は漠然としていて、人には説明できかねますけれど、いつかは説明できると思います。その時を楽しみにして下さい。今日のところはこの辺でペンを置かせて頂きます。(北海道 N・M)

## “今日一日に感謝の気持ちを持ち続ける事”を大事にする

栗原センター長、シゲさん、お手紙有難う御座います。送って頂いた“潮騒通信”内の写真は皆、とても楽しそうにしている、また砂浜で相撲を取る迫力のあるものや、ちょっぴり恥ずかしそうにしているもの等、その場にはない自分すらも笑顔になってしまいます。その写真を撮るシゲさんの人柄が皆を笑顔にしているんだなあって感じられる写真です。

前回シゲさんから教えて頂いた“今日一日に感謝の気持ちを持ち続ける事”を自分なりに理解し、刑務所の作業や生活をしていく中で、悔いが残らないように大切に過ごすように心掛けています。“継続は力なり”を大切に忘れず頑張ります。栗原施設長、シゲさん、体調には充分御留意下さい。(北海道 S・K)

今回の手紙の中には刑務所における深刻な課題である高齢者の増加と軽度の知的障害を持つ累犯受刑者の増加がリアルに指摘されています。依存症の世界でも同じような傾向が見られますが、潮騒はそうした内部矛盾を膨らませながらも、独自ビジョン(しおさいアディクション・ピレッジ構想)に可能性を見出そうとしています。(潮)

## 自分の思っている事くらい、 ちゃんと話したい

毎度のお便りと「どっこい生きてます」、大変有難うございます。先日、仮面接がありました。順当な感じでした。それから“薬物依存離脱指導”という教育を受講しました。全部で7時限でした。DARCのVTR、ミーティング、そして“長崎 DARC”の方が外部講師として来られ、お話やミーティングをしました。その中で“長崎DARCの方のお話が凄く良く、優しく、分かり易い”という感じでした。私は凄く感動しました。そして、「私もこういう風に依存症からの回復をし、どんな人の前でもしっかりと話を出来る人間に成りたい」と思いました。

今回、そう強く思ったのには、ミーティング等で発言する時、自分が話したい事、伝えたい事等、思っている事が10分の1も話せなかったのも、その事が凄く大きく“悔いが残って”していました。ガッカリしたり、物足らなかつたりした気持ち、それが何だかカッコ悪く思ってしまったのです。自分の思っている事くらい、ちゃんと話したいし、もう40歳だし…(笑)。何時までもこうではいかん、と思ったのです。そして「人前で話をするという事は、考えをまとめる上でも大事な事だ」と思いました。

私は今回3度目の懲役です。その現実を考慮すると、「そろそろ前に進んでも良いのではないかな?」とも考えていますが、そうする為には回復をしなければ前に進む事は出来なんでしょう。出所後、どのような行動をとるかが大事であろう、と考えています。“常日頃から薬と向き合って、自分と向き合って生きて行こう”、その為には「潮騒ジョブトレーニングセンターさんと係わっていけたらいいな」との気持ちを強くしています。今後、色々な相談をするかも知れませんが、「私も仲間の一員として皆と回復の道を進んで行きたい!」と考えて居ます。今回はこの辺りで失礼致します。

(長崎県 I・K)

## センジイとは思い出があるだけに 何だか心残りがあ

お手紙有難うございます、シゲさんからの励ましのお手紙によって何だか勇気が沸いてきました。今では以前に感じる事のなかった仲間の回復がこんなにも嬉しいものなのか、と思いました。シゲさんにはもともと長くクリーンを続けて欲しい、と思います。半年前になりますが、潮騒通信の1月号に掲載された“センジイの死”は余りにもショックでした。独房の中で一人、涙しました。自分と四歳しか違わないのに、早過ぎです。自分とは潮騒の中でも仲が良かっただけに非常に辛いです。自分はセンジイとは色々な思い出があるだけに、何だか心残りです。でも自分も、これで目が覚めました。何が何でも回復、そして再生してみせよう、と思いました。毎日のミーティングを重ね、退寮などをする前に気がついていれば、こんな事にはならなかった、と心から後悔していますが、もう遅いので、懲役に行つて、もう一度よく自分を見つめ直してみたい、と思います。

今自分は、回復していく自分をイメージして毎日を過ごしておりますが(クスリを)やりたい、という気持ちはやっぱり消えないのですね。しかし、“いかに最初の一回に手を出さないようにするか”なのですよ。出所したら、また“ステップ1”からやり直します。まずは刑務所へ行くと必ず飲んで安定剤の類いを全て止めないとダメですよ。今は飲んでいません。2カ月くらい前までは飲んでいましたが、便秘をします。「別に薬に頼らなくても大丈夫」と自分に言い聞かせれば平気です。ただし、眠剤は飲んでます。覚醒剤が無かったら、今度は処方薬依存ですね。もう、自分でも“十分に遊んだ”って思っていますから、これからは回復、そして再生を目指して頑張りたい、と思います。

(東京都 S・K)

# しおさい俳壇

6月のお題 **五月雨**

選者 **桐本石見**

**わが俳句人生の歩み・No.41**

センター長 **栗原豊**

長い間の薬物・アルコール依存の後遺症と70歳も半ばの年齢的な影響もあってか、私の頭の中で過去の記憶がうまく繋がらないことがある。このため本連載も、時系列的な矛盾や齟齬(そご=食い違い)を感じる部分があるかもしれないが、どうかご容赦願いたい。

私の回復に繋がる7回目の刑務所生活において、身内の姪(私の兄の長女で、私の娘達とほぼ同年代)との唯一の文通が受刑生活の心の支えになった事は前回触れた。私は姪にあれこれと必要な身の回りの品などで差し入れを頼み、姪もそれに応えてくれた。その姪も独り暮らしながら生活のために、クリエイターとしての腕を生かして群馬県内の企業に就職していた。でも、生きづらさを抱えたアディクトだけに、何かと仕事先の労働環境では困難な局面に晒されていたようだ。

「久しぶりに手紙を送ります。先週、なんと私は会社を辞めてしまいました。理由は給料が言われていたより少なかったから(2万円も!)、サービス残業があまりにも多かったから(月80時間ぐらい!)です。給料が少なかったのは経理のミスだったので、返してもらえましたが、私の辞めるといふ決心は変えられませんでした。それで今は無職の状態です。どこかいい会社が見つかるといいのですが…。」

これに対し私は「手紙ありがとう。会社を辞めたとありましたが、これまでの君からの手紙で(勤めた会社の労働環境の)大変さが伝わっていたので、よくここまで辛抱したなあ、と思っています。無理してまで頑張ることもないよ。そのうち君に合った会社が見つかるさ。」と勇気づける返事を書き、堀の中から姪を励ました。

当時、依存症について深く考えてはいなかったけれど、いざ自分が回復施設を運営し、多様なアディクトの就労問題に直面して思うのは、潮騒が掲げる「半就労・半福祉」の労働環境こそがアディクトにとっての丁度いい生活スタイルなのではないか、という確信だ。「アディクトは一般人の6~7の仕事量で一人前。それ以上頑張ると、スリップのリスクが大きくなる」。これが私の得た教訓だ。世知辛くなるばかりの世の中の流れて、この「丁度いい加減」なレベルを地域社会が理解を示し、社会的な合意を得る事は至難の業だろう。これを実現するには、どんなに遠回りに見えても私が妄想として描く、「しおさいアディクションビレッジ=潮騒依存症村」の実現が不可欠だと考えている。(次号に続く)

つぐないの今朝の一步に青葉風／芍薬の満る世隔つ高き堀／威の失せて若葉に埋もる看視塔

五月雨や  
下校の子らの  
傘の花

ゆうこ

梅雨は時期の事を言い、五月雨は雨そのもので田植えの頃の雨でもあります。最近傘の色とりどりの物があり、下校の子らの傘の花も微笑ましい。何時も見える景ながら、愛おしく思う句です。

特選句

宵の雨

過ぎし朝顔

市におり

あべ

俳句では朝顔市は初秋の季題で、ことに東京入谷の真源寺が鬼子母神と共に名高い。朝顔は奈良時代から漢方薬として育てられ、江戸時代に鑑賞用になり大正二年頃廃れたが、昭和二十三年に戦後の明るさを町にとの思いで復活したと言う。雨上がりの濡れた朝顔も美しい句。

特選句

五月雨や

しんと鎮まる

午前二時

れいこ

五月雨は大雨と言うより小雨が降り止みして続くので、昼も薄暗いし心も沈む。また草木も茂り、山国などでは山の深さを増す思いがします。まして午前二時は、真夜中で宵闇も何か濡れて重く鎮まる思いがして、過疎化の故郷の山家を彷彿する句でもあります。

特選句



# 今月の秀逸句

五月雨  
朝靄こもる  
下津浜

みく  
鹿島灘は親潮と黒潮の合う所で靄(もや)も立ち易いし、五月雨の頃は鹿島神宮の森も靄が漂う。また下津の浜に散歩して、靄の籠る中に波音を聞くのも風情がある句です。

五月雨の  
雫の伝ふ  
細石

ひろ  
細石(さざれいし)は君が代に歌われていますが、鹿島神宮の鹿園の隅にもある。石灰石が風雨で溶解し、粘着力の強い乳状液が小石に凝結して岩となる様を歌にしたもので、岐阜県揖斐川(いびがわ)町のが本物とか。岩を伝う雨雫も美しい岩となる年月の遠くを思う句です。

五月雨に  
相合傘の  
老夫婦

しげ  
相合傘は若いカップルが似合うが、老夫婦の仲むつまじいのも微笑ましい。現代は離婚も多いが、長年連れ添い遂げるのも夫婦と言うもの、雨の中にも明るい句です。

五月雨や  
そつと寄り添ふ  
傘の中

こば  
これは若いカップルか、東京などに行くとき良く見掛ける景だが、今は結婚年齢も高く社会問題でもありますが、この詠のカップルも結ばれることを祈る句でもあります。

五月雨の  
後の涼やか  
ボランテア

けいり  
五月雨が続けていたが、今日は朝から晴れて清々しい。何のボランテアだろうか、外での仕事なら花植えかも、奉仕と言うのも心が晴れ晴れする句です。

死と言ふは  
何時も突然  
燕子花

ゆたか  
この詠の訃報は遠方かあるいは事故などかも、身近の人なら病状も知れる。又そうであっても死亡の日時は誰にも判らない。今では突然に携帯電話などで訃報は来る。齢を重ねると死と言うも又、それ故今を大事に生きると言う事も切実に思う。燕子花(かきつばた)の紫もしみじみした句でもあります。

## 佳作

カエルがね雨の降る中ガーガーガー	しま	五月雨の了るを待つや西瓜割り	ゆめ
五月雨よ夏の近づく鹿島灘	いるか	五月雨や外に出られぬ子供達	ひろ
五月雨を眺むも時に風情かな	めい	五月雨の止みたる月の杏色	けんじ
紫陽花や四五日雨の晴れを待つ	チャコ	五月雨を凌ぐ彼方に積乱雲	けいり
紫陽花の色美しき今朝の雨	くま	五月雨の鑿打つ如くハーモニー	くそ爺
五月雨や里芋の葉を傘代り	みく	五月雨もロマンチックや酔ひしれて	おの
五月雨の泪色にも見ゆるかな	まこ	花あやめ顔も優しく逝きにけり	ゆたか

どっこい

## 私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第7回

## 失敗だらけだった北海道への4カ月逃避行

前回休載しましたが、恥をしので僕の回復ストーリーを続けます。一般にアディクトは目の前の問題から目をそらして逃避するのが“得意芸”です。サラ金の追い立てから逃げるように、私は「心機一転、人生をやり直すんだ」とばかりに北海道への逃避行を敢行しました――。

浅草でのホームレス生活から抜け出し、再び仕事を得るようになると「自分の稼ぎで酒を飲んで何が悪い!」。僕の中でアディクト特有の思い上がりが頭をもたげ、キャバクラ通いなどでサラ金地獄に陥りました。その執拗な督促攻勢に耐え切れず、僕は現実逃避の手段に出ました。たった4カ月の北海道への逃避行です。相変わらず馴染めない義父から「行って来い。でも帰って来るな」と言われながら、片道の飛行機代3万円を出してもらった24歳の僕は、1995年暮れに意を決して北海道浦河町の牧場で働き始めました。

きつい仕事でしたが、宿舎には関西出身の先輩がいてウイスキーが置いてありました。その先輩からは「好きな時に飲んでいいけど、寒すぎて酔っぱらわないぞ」と助言されましたが、依存症の僕は酔いが原因で間もなくトラブルを起こしてしまい、その牧場に居られなくなりました。身勝手な僕は札幌ならどうにかなると思い、「札幌に行きます!」と牧場主に告げ、求人情報紙に掲載されていた札幌市内のそば屋に電話しました。折から超繁忙期の12月末だったこともあり、身元確認を経てうまく採用されて翌96年4月まで僕は自転車での出前運びや皿洗いなどで一生懸命に働きました。そば屋の寮はお酒が自由に飲める環境だったのですが、酒にいやしい依存症の僕は、店においてある焼酎の“盗み酒”をしたり、冷蔵庫に冷やしてある仕事仲間の缶ビールを勝手に飲んだりしました。

そんな中で、今でも不思議に思えるのは、どうして僕の居場所が分かるのか、その店にもサラ金からしつこく支払い督促の電話が入るのです。サラ金地獄から逃避できるどころか、ますます僕の神経を悩ませるようになりました。

いつの間にか僕には督促電話の数が出前の電話よりも多くなっているように思え、気恥ずかしさから「すいません。そろそろ東京に戻りたいんですが…」と、店主に辞意を伝えました。でも、そんな自己中心的な僕の生き方が通るほど世の中は甘くはありません。あたかも僕を試すかのように、僕は交通事故を起こしてしまったのです。店主は「話は分かった。でも今忙しいから、このカツ丼15個の出前を、店の車でお客様の所に運んでくれ。すぐそこだから5分もかからない」。僕は当時、免停中で免許不携帯だったのですが、断り切れずに車を運転してしまいました。案の定、店を出てすぐに物損事故を起こしてしまいました。幸い僕は一週間程度のむち打ち症ですみましたが、店側は「こっちが無理やり頼んだんだから…」と治療費と帰りの飛行機代を出してくれました。これがきっかけで僕は東京に舞い戻ったのです。そして、もう一度、あの怖い叔父の中華料理店で働くことになりました。その話は次回に。

(次号に続く)



## 6月のバースデー



とん  
仲間とともに



えびちゃん  
年相応に  
成長したい。



じゅん  
野菜作り  
頑張ります。



あつし  
なんとか  
やっています。



きよ  
頑張ります!!



とむ  
20歳に  
なりました。

## 6月の行事予定

- 6月7日 栗原センター長の小学校同級生来訪
- 6月8日 潮騒俳句会
- 6月10日 JA直売所メロン祭り
- 6月11・17日 秋元病院メッセージ
- 6月15日 フラワーロード花植え(除草作業)
- 6月18日 みのわマック感謝の集い
- 6月19日 フラワーロード花植え(定植作業)
- 6月21日 世田谷区下馬三者合同施設見学会来訪
- 6月25日 潮騒家族会  
リカバリーパレード打ち合わせ
- 6月26日 筑波大学医学部生研修来訪

## 7月の行事予定

- 7月9・15日 秋元病院メッセージ
- 7月13日 潮騒俳句会
- 7月16日 茨城ダルクフォーラム
- 7月23日 潮騒家族会
- 7月30日 アディクションセミナー  
ピアサポ祭り

### 献金・献品を頂いた方 (6月15日現在)

- |           |            |
|-----------|------------|
| ・K&G 企画 様 | ・岡部 様      |
| ・市毛 勝三 様  | ・箕輪 裕子 様   |
| ・永山 清 様   | ・波田野 千恵子 様 |
| ・潮騒家族会 様  | ・今野 正男 様   |
| ・高田 武義 様  | ・小橋 ひとみ 様  |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。  
本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを  
実践することができておりますことをご報告いたします。  
今後ともご支援くださいますよう、  
なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。  
ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて  
いただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

## 編集後記という名の独り言

人にはそれぞれ家庭の事情があるし、固有の暮らし方がある。何が  
幸せかについても、それぞれの価値観で異なる。一方で、万人に共通  
する幸せ観というものもある。歴史や民族、言語・習俗を超えた反戦・  
非戦や平和、人権の尊重などが挙げられるだろう。それらは頭の中  
では描くことはできても、現実には世界のあちこちで民族・宗教対立、経  
済格差、貧困などによる局地戦やテロ戦争が後を絶たない。かくも人  
間とは不可解で厄介な存在だ。人類の幸福実現など夢物語、とても一  
筋縄ではいかない▼さて、わが日本についてだが、いよいよ雲行きが  
怪しくなってきた。国家滅亡寸前にまで突き進んだ、あの凄惨な犠牲  
を生んだ未曾有の大戦への反省からスタートしたはずが、72年後の  
今、僕らの前には寒々とした風景が広がっている。政治は劣化して民  
主主義の根底をなす三権分立が危うくなり、メディアは萎縮して人権  
の制限と相互監視の社会が目前に迫る。もはや独裁国家一歩手前で、  
憲法に国軍が規定されて軍部が政権を握るようになれば、正に戦前  
の軍国日本の再来ではないか▼これには反論があろう。「オマエの現  
実認識は悲観的すぎる」「日本人はバカじゃない。自分の国を舐める  
ものか、最後は歯止めが利く」と。確かに僕は戦争体験がなく、戦後民  
主主義の恩恵をいろんな場面で享受してきた世代だ。これら危機意  
識は僕の頭の中だけだとしても、生前母親がよく口にした「ウチは男ば  
かり3人だから、昔なら真っ先に兵隊に取られてる。そう思えば多少  
出来が悪くても子供らに不満はない」。この言葉に僕は、子供ながらに  
戦争の持つ意味を肌で感じ取ってきた▼なのに、ほぼ僕と同じ世代の  
為政者たちが戦争への道を突き進む動きを、どうしてこうも加速させ  
るのか、との疑念が拭えない。僕らの掛け替えのない生命・財産がか  
かっているだけに、「認識や価値観の違い」で片付ける訳にはいかない。  
国の最高レベルにある者なら、子供達の範となるよう国会での議  
論には真摯に向き合うべきで、僕らの抱くモヤモヤ感を払しょくさせ  
てほしい。自分を棚に上げ、安全な場所からの他者批判は卑怯者のす  
る事だと思う▼大袈裟かもしれないが、このところ国の動きを報じる  
ニュースを見ていて、僕の中で言葉にできない苛立ちと虚無感が広が  
り続けている。一見、依存症問題とは無縁に思えるが、そうではない。  
社会的局所でダルクや潮騒が地道に積み上げてきた歩みなど、有無を  
言わせぬ動きの下では簡単に吹き飛ばされてしまうだろう。今でさえ  
「役立たずの余計者」「税金食いのお荷物」との偏見が強いだけに、た  
やすくアディクトは“非国民”のレッテルが貼られ、社会の憎しみを喚  
起する格好の標的とされかねない。なんとも息苦しくなった。(市)

## 潮騒通信 どっこい生きてます! 2017年6号

### Contents

- P② 「受刑者の皆さん、回復を諦めるには早すぎます」
- P③ 栗原センター長の小学校同級生 潮騒を視察訪問
- P④ 2017 シリーズ企画「潮騒ジョブってどんな施設なの？」  
その4:「潮騒家族会」
- P⑤ JA直売所のメロン祭り
- P⑥ 潮騒フラワーロード  
デイケアの仲間70人が参加して恒例の花植えプログラム
- P⑧ 潮騒アディクションセミナー
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 6月のお題「五月雨」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第7回 / 6月のバースデイ
- P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

### ■ 編集・発行 :

特定非営利活動法人  
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)  
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号  
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091  
潮騒リカバリーホーム(中施設)  
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号  
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098  
潮騒スリークオーターハウス 銚田  
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)  
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



